

新都市社会技術融合創造研が第1回委員会

新規9PJ設立を承認

高齢長大橋梁の長寿命化など

産学官が連携して新技術の研究に取り組む新都市社会技術融合創造研究会(委員長・大西有三京都大学副学長)は7日に2010年度第1回委員会を開き、「高齢化を迎えた長大橋梁の診断と長寿命化に関する研究」など新規9プロジェクトの設立を承認した。舗

装用骨材資源の有効利用に関する研究」など継続3プロジェクトは年度内に研究を完了させ、成果をまとめる。

大西委員長は、「構造物が老朽化する中、維持管理費が削減されており、また新たな建設工事が減っていることから、新規プロジェクトの大半

が維持管理分野の研究となった。各プロジェクトの研究動向は、他地方整備局からも注目されているため、ニーズに沿った新技術を広く発信していきたい」とコメント。新規プロジェクトは10～12年度の3カ年で研究を進める。

高齢化を迎えた長大橋梁の

診断と長寿命化に関する研究(リーダー・坂野昌弘関西大学教授)は、80年以上供用され続けて高齢化を迎えた、淀川に架かる長大トラス橋を中心に実施。各部材の健全性を評価・診断し、解析や実験により劣化挙動を推定。橋梁全体の劣化シナリオに対して、予防保全を含めた補修・補強対策を検討しながら、維持管理方針案を策定する。

参加メンバーは日本橋梁建設協会、海洋架橋・橋梁調査会、阪神高速道路、建設コンサルタンツ協会近畿支部、日本非破壊検査工業会、関西大学、京都大学大学院、国土交通省近畿地方整備局道路部・大阪

国道事務所・近畿技術事務所。

このほかの8プロジェクトは、▷排水、透水性舗装の沿道環境改善機能▷ナノセンサーデバイスを活用した道路管理手法▷ゲリラ豪雨時における道路斜面安定性評価▷橋梁細部における海塩粒子の付着量推定と腐食劣化予測手法の開発▷走行型計測技術による道路トンネル健全性評価の実用化検討▷アーチカルバートを連続的に含む景観性に優れた盛土構造の耐震性能評価と災害復旧▷道路付帯施設・情報管理施設のアセットマネジメント▷橋梁の延命化シナリオ策定の実践・検証一に関する研究を行う。